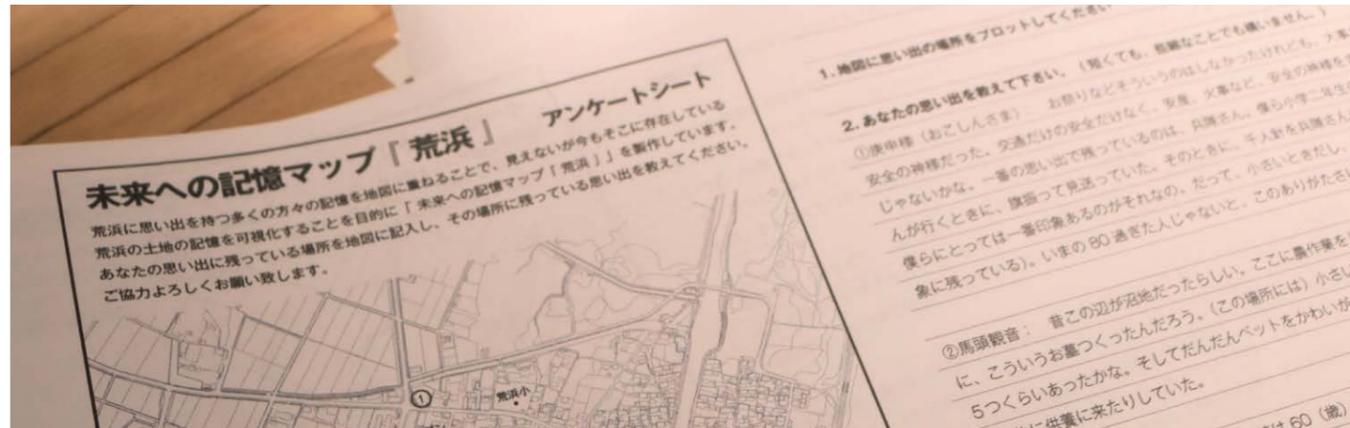


## 「未来への記憶マップ」をつくりませんか？



「住民の思いを伝えていきたい」という高山さんたちから、荒浜地区における「未来への記憶マップ」の制作について提案がありました。ヒアリング、アンケートにより地域内外の人に荒浜での思い出と、思い入れのある場所を記入してもらい、それをもとにマップを制作していきたいということでした。

「自分と同世代の荒浜に住んでいた子たちは、あまりまちづくりの議論に参加してきません。それは「関心がない」のではなく、みんなそれぞれの生活に忙しいから。でも、ひとりひとりとちゃんと話をすると荒浜のことを気にかけてる。『どんな町だったのか分からなくなるのは嫌だ』という声もあって、そうだなあと自分も思います。」(高山さん)

ひとりひとりが荒浜にどんな思い出を持っているのか—それを聞き取り、可視化していくことで、今は見えなくなってしまった暮らしの光景を「未来への記憶マップ」を手掛かりに共有することができるのではないかと、という提案です。

「記録として重要であるとともに、跡地利活用の計画の際に活用したり、事業者の利益追求と住民感情のすれちがいを防いだりすることができるのではないかと考えていま

す。利活用事業は、ただの空き地であってはならないと思います。ここには暮らしの場があったことを意識してほしい。住民の思いが伝わらない利活用となり、被災した住民がもう一度傷つくようなことはあってはならないと思っています。」(高山さん)

進行の西大立目さんからも、『その土地の記憶をどう残していくか／どう伝えていくか』という視点が利活用事業には必要ではないか』という指摘がありました。

「その点で、『未来への記憶マップ』は、①住民と話題を共有するためのツール、②他者への可視化を図るためのツール、③行政に提案するためのツールとしての可能性を秘めていると思います。」(西大立目さん)

利活用事業については知らない市民も多く、また実際に提案された利活用アイデアについても「誰が」「どのような思いで」提案しているのが公開されていないため、提案者同士のやり取りもほとんど生まれていません。利活用事業をはじめとした復興事業については、市民同士で理解を深めながら対話が生まれるよう、メモリアル交流館として中立的な場をつくっていききたいという八巻館長からの意見もありました。

今回のおはなし会では、利活用事業の対象地である仙台市沿岸部にお住まいの方もそうでない方も集まって話題を共有することができました。メモリアル交流館では、引き続きこうしたさまざまな主体が集まる場とおして、「今の声」を聞き、語り合う機会をつくっていききたいと考えています。

お問合せ  
せんだい3.11メモリアル交流館  
住所：〒984-0032 仙台市若林区荒井字沓形 85-4 (地下鉄東西線荒井駅内)  
電話：022-390-9022 メール：office@sendai311-memorial.jp  
ウェブサイト：http://sendai311-memorial.jp/ フェイスブック：https://www.facebook.com/sendai311memorial/

地域を知るためのおはなし会 #1

## 想像してみよう 「かつての暮らし」と「これからのまち」

仙台市が進める「集団移転跡地利活用事業」(以下、「利活用事業」と表記)。これは、東日本大震災によって災害危険区域となり、防災集団移転促進事業によってより安全な内陸部へ移転を果たした住宅の跡地を仙台市が買い取り、「交流とチャレンジ」をテーマに新たな土地の利活用に取り組む事業です。2016年4月から6月にかけて市民や事業者に対して事業提案を呼び掛け、11月からは内容をより具体的に検討する委員会も設置されました。

せんだい3.11メモリアル交流館では、11月より企画展『沿岸部の空想マップ—新たな魅力づくり 現在進行中—』をとおして利活用事業について紹介を行うとともに、12月18日には事業の対象となっている仙台市沿岸部のこと、そしてこれから進もうとしている利活用事業についてきちんとみつめていくための場として「地域を知るためのおはなし会」を開催しました。

はじめに、せんだい3.11メモリアル交流館の八巻寿文館長より企画展『沿岸部の空想マップ—新たな魅力づくり 現在進行中—』の開催の意図として「より多くの市民の皆さんにこの事業について知ってもらいたかった」という説明がありました。

「知らないうちに計画が進んでいた、ということは避けたい。さらに、この話題についての対話の場があまりにも少ないように思える。今日のをきっかけに、さまざまな場面でこの事業についての対話が生まれてほしいと思います。」(八巻館長)

続いて、進行役を務めるフリーライターの西大立目

祥子さんから、事業の対象地である仙台市沿岸部についての魅力についてお話がありました。

「東部エリアの魅力は『生産地があること』だと思います。そして、それは生業を伴うことにもなります。仙台藩は、東部エリアが生産の場であり、安定した食糧供給が見込めたからこそ、今の仙台市中心部に街場を築くことができました。東部エリアには共同体の精神があり、それを守っていくための自治の力もある。それは、何事もお金を出して解決してしまう現代社会の考え方とは違う、もっと尊いものがあります。こうした『仙台東部らしさ』と断絶した利活用提案であってほしくないと思っています。」(西大立目さん)

